

表1 樹脂量段階と加害虫の関係

樹脂量	卅	卅	+	±	-	枯
調査本数	31	6	23	27	24	9
ニセマツノシラホシゾウ			?	●	●	●
マツノシラホシゾウ			○	●	●	●
コマツノシラホシゾウ				●	●	●
クロキボシゾウ	○	?	●	●	●	●
マツノマダラカミキリ			○	●	●	●
キイロコキクイ				●	●	●
その他					ツノキクイ	ニトベキバチ

○ 1例のみ ● 多数例 ? 産卵可能性大

表2 餌木巻きつけて健全木へ産卵した卵の発育 シラホシゾウ類は長さ30cm調査

試験木 No	丸太大きさ		マツノマダラカミキリ					シラホシゾウ類	
	中周	中央長さ	産卵孔	卵なし	卵死	幼虫死	幼虫生	幼虫穿入死	幼虫生
231	29.5	100	26	15	11	0	0	24	0
236	31.0	100	32	26	1	5	0	40	0
429	31.0	100	8	1	4	3	0	30	0
438	31.5	100	78	55	23	0	0	16	0

キイロコキクイは、土から穿入する。
 クロキボシゾウは産卵範囲が広く、稀であるが土にも行なう。
 調査した120木のうち、古い食痕はクロキボシゾウによるものが4本のマツについて発見されたが、いずれも若い幼虫の間に死んでいた。他の種のはなかった。このことは、クロキボシゾウが産卵したマツの一部は枯れずに回復することがあるが、他の穿孔虫が産卵するようになったマツは、殆んど枯れてしまった

ことを意味する。

3. 要 約

まつくいむしと呼ばれるマツ類穿孔虫は、異常になつたマツに産卵を行なう。人為的に健全木に産卵させても、ふ化直後の若い幼虫で死んでしまつて発育できない。

樹皮下を食害するという加害方式では、これら穿孔虫は二次害虫である。

88. シラホシゾウ類の行動におよぼす気象の影響

林業試験場九州支場 ○岩崎 厚
 森 本 桂

シラホシゾウ属3種の餌木に誘致される数は、5月から7月初めにかけて2ないし3のピークがあるといわれていた。被害マツ内で越冬した幼虫は、6月下旬

から羽化脱出するものが多いことから、5~7月に餌木へ集まるものは殆んど成虫越冬をした個体と考えられる。誘致数が変動する原因について、気象の関係を

調べたので報告する。

調査方法

林業試験場九州支場構内と、隣接した実験林の2か所に餌木を設置して、1971年5月12日から8月3日まで、集まった虫を毎日採集した。

またこの間支場構内で、気温、湿度、降水量、風速を記録した。

1970年4月から10月まで、大矢野試験地の毒餌木で採集した結果を、今年のデータと対比した。

結果と考察

誘致の季節的变化は図1の通りである。

誘致数の日変化と気象要因を対比させたところ、降水量以外の要因とは関係なく誘致数は変動している。

降水量と誘致数は逆の関係があり、降雨で誘致数は少なく、雨の降らない日には多く集まる(図2)。また5月と6月では雨の降らない日が続くと、誘致数はだんだん多くなっている。

1971年の誘致数と降水量を5日ごとにまとめてみると(図1), 1つの大きな山となり昨年の大矢野の結果(図3)のように大きな変動がない。今年と昨年の降水量を5日ごとにまとめてみると、今年は5月から6月にかけて平均して雨が降っているのに対し、昨年

要約

シラホシゾウ属3種の餌木に誘致される数は、雨の影響を強く受ける。

5月から7月にかけて誘致数にいくつかの山ができるが、これは、虫の個体数があるように変動するのではなく、雨の降り方によって移動が影響を受けるためであると思われる。

は変動が激しく、これがシラホシゾウ類の誘致数に大きく影響して3つの山となったことが推定できる。

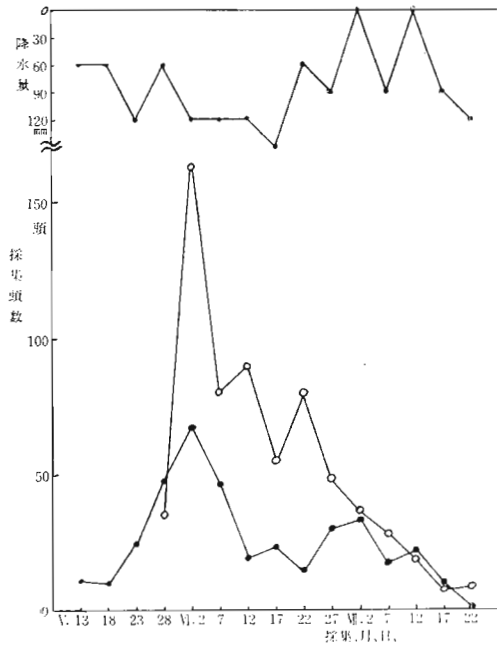


図1 採集頭数と降水量の関係 マツノシラホシゾウ1971実験林

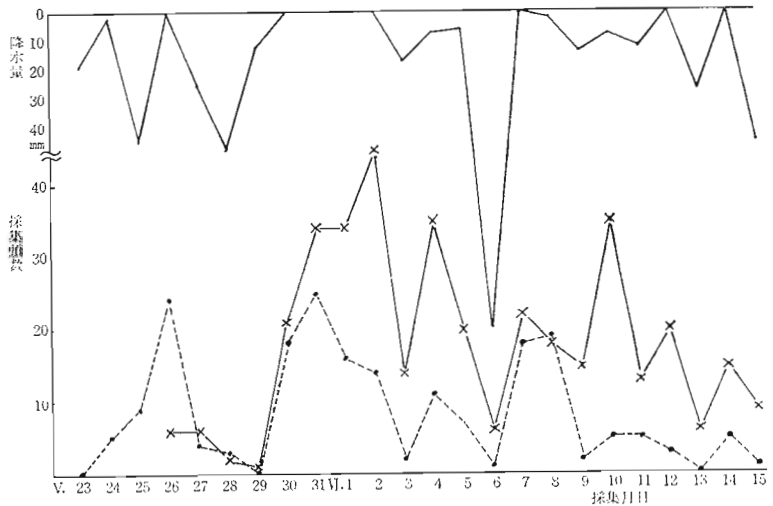


図2 採集頭数と降水量の関係 マツノシラホシゾウ 1971年実験林

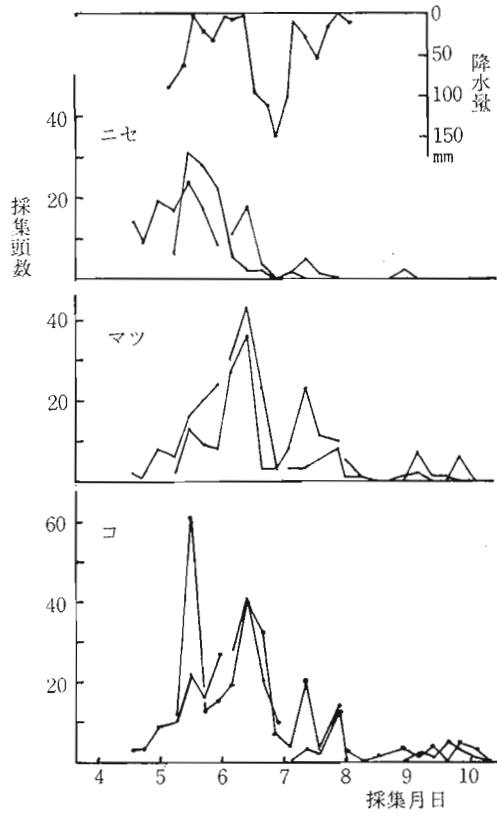


図3 採集頭数と降水量の関係
シラホシゾウ属3種 1970大矢野

89. マーキング法によるシラホシゾウ類の 密度推定 III

林業試験場九州支場 森 本 桂
 岩 崎 厚

私達は、シラホシゾウ属3種の個体数とその動きを、マーキング法によって推定してきたが、誘引剤の効果を判定するモデル試験の一つとして、途中から毒餌木を持ち込む方法を試みたので、この結果を報告する。

1. 調査方法

調査場所：九州支場実験林

- a. 頂上試験地 クロマツ44年春植栽
 - b. ヒノキ林上試験地 マツ類4種45年春植栽
- 調査方法：半径20mの円周上に8か所餌木を設置。餌木は、直径約10cm、長さ30cmのクロマツ5本を1組とした。
- 両区とも6月17日餌木設置とともに、別に採集してマークをつけてあったマツノシラホシゾウを放虫した。以後3日ごとに回収と放虫をくり返した。ヒノキ